

日中科学技術

No. 122

No. 123

2007.12.20

発行所

特定非営利活動法人 日中科学技術交流協会

〒103-0003 東京都中央区日本橋横山町 3-1 横山町ダイカンプラザ 403 号

E-mail : jcstea@alpha.ocn.ne.jpURL : <http://www13.ocn.ne.jp/~jcstea/>

電話 : 03 (6431) 0456

Fax : 03 (6431) 0466

講演会 - 中国原子能科学研究所の最近の活動

講師 : 中国原子能科学研究所 院長助理 劉 森林 (Liu Senlin) 氏

主催 : 日中科学技術交流協会 共催 : 日本原子力学会関東・甲越支部

6月29日(金) 17時~18時 於 JNC 青山分室



劉 森林 院長助理 講演写真

ら劉院長助理を初め、4 名の方がわが国を訪問されましたので、この機会を捉え、中国の原子力発展や原子能科学研究所の幅広い活動を紹介していただきました。

内容

1. 中国原子力エネルギー技術の促進
 - (1) 中国の原子力発電の状況
 - (2) 中国原子力発電関連の新しい組織
2. 中国先進研究炉 CARR の応用

講演会には21名の方が参加し、講演後は有志による懇親会(下写真)が開催され、日中の親善を深めました。(永崎 記)

中国は現在、急速に原子力発電を建設しようとしており、産業界の強化をしております。また放射線利用の面も急速な成長を示しております。

このような中において、原子能科学研究所は日本原子力研究開発機構に類似した原子力研究開発機関として、高速実験炉や改良型研究炉 CARR の建設を進めています。

この度、中国原子能科学研究所か



上海・合肥の原子力科学技術機関との交流団

2007 年 10 月 21 日(日)～10 月 25 日(木) 団長: 山脇 道夫 副理事長

主催: 日中科学技術交流協会、

後援: 日本原子力学会、同関東・甲越支部、海外電力調査会

上海周辺には核融合や放射光等の研究所や原子力設備設計、製造企業等が集積し、今後の原子力開発の中核たる役割を果たそうとしています。

当協会は、原子力民間企業や大学を中心としたビジネス交流団を募集し、10月22日(月)より25日(木)にかけて、上海・合肥地域のエネルギー関係機関へ訪問団を派遣し、交流を深めました。

本訪問には、科学院や上海科学技術協会の協力、日本原子力学会、日本原子力学会関東・甲越支部、海外電力調査会の後援をえました。

この派遣は、今年3月に実施した北京地域への訪問団に続く企画で、訪問団を受け入れてもらった機関の代表者の多くは、日本への留学経験があるとか、日本と協力関係を持っている方々であり、そのためか暖かい歓迎と好意的な応対を受けました。各機関で今後の協力に向けての積極的な話し合いが持たれ、参加者にとって有意義な訪問であったとの感想が多く聞かれました。

訪問先と日程

10月22日 (安徽省合肥)

- ①科学院プラズマ物理研究所(核融合)
- ②科学技術大学

10月23日 (上海市)

- ③上海科学院応用物理研究所 加速器
- ④上海同歩輻射光源施設 建設現場

10月24日 (上海市)

- ⑤上海科学技術協会、核学会
- ⑥上海核工程研究設計院

10月25日

- ⑦上海電気核電設備有限公司

参加者 17 名

団長: 山脇道夫 協会副理事長

- ①木村晃彦 京都大学 教授(A 班)

- ②四窪樹男 東北大学 教授(A 班)
- ③佐藤 学 東北大学 助教(A 班)
- ④磯野高明 JAEA研究主幹(A 班)
- ⑤榎本總明 海外電力調査会 理事長
- ⑥植田拓郎 電力原子力室室長
- ⑦米淑華 電力原子力室秘書
- ⑧富永研司 日立製作所 王禅寺センタ長
- ⑨伊世井宣明 JAEA 副主幹
- ⑩高尾武 電力中央研究所特別研究員
- ⑪松川良 東芝電力システム社部長
- ⑫中平弘 元住友原子力工業 副社長
- ⑬野本健二 日本原子力発電主席研究員
- ⑭藤沢盛夫 富士電機システムズ技術部長
- ⑮武内信義 富士電機システムズ統括部長
- ⑯永崎隆雄 協会事務局長

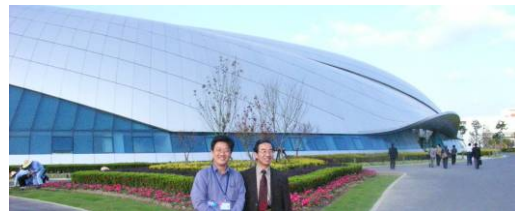
A 班の方はプラズマ物理研究所訪問後、桂林に移動し、日中シンポジウムに参加。



合肥先進超伝導トカマク実験装置と李所長



合肥プラズマ研と科技大学との懇親会



同歩輻射光源施設と郇仁忠氏(左端)



左より山脇団長、科技協会王智勇副主席、曹培新氏、核学会許道礼秘書長



上海核工研設院の鄭明光副院長(左より 2 番目)

報告会の開催

主催: 日中科学技術交流協会
 後援: 日本原子力学会、同関東・甲越支部
 海外電力調査会
 2007年12月19日(水) 16時~18時
 於 JAEA 青山分室

今回の訪中団員による報告会を開催しましたところ、30名以上の参加を得て、活発な質疑応答が行われました。



報告会プログラムの概略

- 1) 趣旨と全体概要
山脇道夫団長 協会副理事長
- 2) 先進型超伝導核融合装置 EAST
伊世井宣明 JAEA 副主幹
- 3) 最新シンクロトロン放射光施設
武内信義 富士電機総括部長
- 4) 上海核工程研究設計院
富永研司 日立製作所センター長
- 5) 上海電気集団—核電設備有限公司

松川良 東芝部長

- 6) 中国科学技術大学
野本健二 日本原電主席研究員
- 7) 上海応用物理研究所
藤沢盛夫 富士電機技術部長
- 8) 上海核学会との交流と今後の抱負
中平弘 元住友原子力工業副社長
- 9) 挨拶
有山正孝 協会理事長

プラズマ物理研究所(ASIPP) の概要


1978年9月に設立、12に研究室を配置
 職員400名(教授49名、助教授78名)
 大学院生300名
 研究内容: 核融合発電を実現するための基礎研究

<12の研究室>
 トカマク物理実験、プラズマ理論、電気機器設計、炉技術、高出力マイクロ波技術、応用計算技術、電源・制御工学、低温工学技術、超伝導磁石、プラズマ生物学、低温プラズマ応用、太陽発電工学

プラズマ研究は全体の40%程度。
 核融合炉材料などの工学研究が60%。

ASIPP は核融合エネルギーの実現をめざす総合的な研究所
 → JAEAの那珂核融合研究所と同一スタンスをもつ

ただし、トリチウムに関する研究は、現在、行われていない。





超伝導トカマクEASTの概要

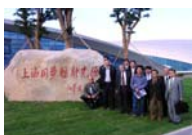



2006年9月28日 ファーストプラズマの着火に成功
 2007年1月23日 ダイバータ配位プラズマの生成に成功

特長	ASIPP	JT-600U	ITER
1) トカマク型では世界で初めて全部のコイルを超伝導化。	2.7	2.26	6.2
2) 非円形装置(ダイバータ配位が可能)であること。	6.4	1.15	2.9
	3.5	2.7	5.1
10 ¹⁹ ・m ⁻³ ・sec(10 ²⁰)	1.5	5.5	15
10 ¹⁹ ・m ⁻³ ・sec(10 ²⁰)	10	100	400


合肥の核融合開発施設の紹介

SSRF (Shanghai Synchrotron Radiation Facility) 視察報告



1. 視察日: 2007-10-23(火) 午後
2. 訪問先: 放射光施設(SSRF)
3. 訪問者: 山脇団長、高尾、野本、伊世井、中平、富永、松川、永崎、藤沢、武内(計10名、敬称略)

2004年12月 着工
 2006年9月 建物の完成
 2007年7月 Linac完成
 2008年3月 Booster完成予定
 2008年10月 蓄積リング完成予定
 2009年3月 ビームライン完成予定
 2009年4月 SSRF利用開始



放射光源施設計画の紹介

上海応用物理研究所の概要

放射線利用技術の国立研究所で先進的な放射光源技術、ビーム技術、プラズマビーム技術の研究が行われている。

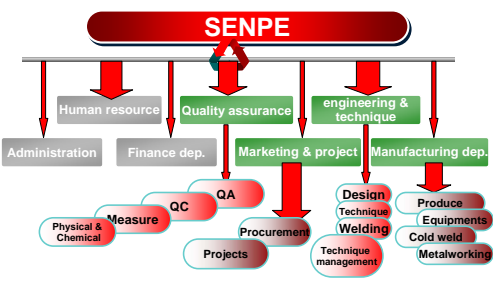
研究施設

- ① 加速器関係の研究棟 : 110MeV の Linac と各種の加速器
- ② 養殖技術、生物科学関係の研究棟
 - ・ 顕微鏡で観察した映像を画像データで CRT に映し、観察し機械的にナイフで切断し DNA の修復機構を明らかにする研究
 - ・ パイオセンサーに関する研究
- ③ ビーム応用の研究棟
 - ・ 数種類のビーム照射装置が設置されており、ビーム応用の研究
 - ・ カーボンナノチューブの開発の研究等



上海応用物理研究所の紹介

上海核電設備組織




Lingang Base

4 sections for nuclear power equipments and with total area 40815m²

<最新鋭工場>
 着工: July 2005、
 2007 完工予定
 敷地: 40,815m²
 4つの機能セクションに別れている

上海核電設備有限公司の説明



HITACHI Inspire the Next

中国の新しい発電建設を担う 上海核工程研究設計院

-目次-

1. SNPTCについて
2. SNERDIIについて
3. 原子力発電所: 運転中プラント
4. 原子力発電所: 新規計画
5. 原子力発電の展望

5. 原子力発電の展望 (その2)

中国の原子力発電所及び計画プラントマップ



上海核工程研究設計院の紹介



原子力学会 宅間元会長の挨拶



3月訪中団員とも懇親

(山脇道夫、永崎隆雄記)

地球環境基金平成 19 年度助成事業

大気分析技術移転 清華大学研究者を招聘

9 月 25 日ー 10 月 4 日 於 千葉大学 袖沢利昭助教授及び大坪泰文教授研究室

本協会は、(独)環境再生保全機構地球環境基金平成 19 年度助成事業として、技術移転事業を実施しました。

この技術移転は、千葉大学の協力の下、共同研究者の清華大学環境科学与工程系の研究者高陽(Gao Yang)氏を、千葉大学袖沢利昭助教授研究室及び大坪泰文教授研究室(内山茂久非常勤講師)に 9 月 25 日から 10 月 4 日に招聘し、大気測定技術を研修することで行われました。

当協会は、有山正孝理事長名で高陽(Gao Yang)氏を日本に招聘しました。

高陽氏は、1983 年 1 月 30 日生れの山東省出身の 24 歳の博士課程の男性で、清華大学環境科学与工程系の許嘉鈺副教授の推薦により受け入れを決定したものであります。

来日後、英語が頗る堪能で活動的で明るい青年という好印象を日本側関係者に与えました。

9 月 25 日同氏は CA925 で来日。午後 2 時成田空港に到着、空港には本協会会員で同氏の直接の世話役の袖沢利昭助教授、及び通訳の蘇茂林氏(千葉大学中国留学生)が出迎え、千葉大学ゲストハウスに案内しました。

9 月 26 日、千葉市内、千葉大学構内等を案内、千葉の滞在中の基本的な生活指導を済ませ、その後日本側関係者も集まり滞在中の研究事項について打ちあわせを行いました。

9 月 27 日より 10 月 3 日までの約 1 週間は技術移転研修に入り、簡易測定法による下記地点の日中大気汚染共同調査を実施し、その手法の研修を致しました。

1. 千葉大学キャンパス

千葉市内の比較的大気清浄予測地区

2. 千葉市役所内

千葉市内の最も交通量が多く、酸性ガス、VOC 等の高濃度予測地域

3. 明德学院

千葉市内の清浄予測地区、但しオキシダントの高濃度予測地区

4. 土気

明德学院と同様の地区

本地域の選定に当たっては、本協会の鈴木伸、袖沢利昭、小関光二、伊藤昭治氏ら及び千葉市役所関係者、通訳蘇茂林氏らの協力を得ました。

又分析手法については、千葉大学大坪泰文教授研究室の内山茂久講師(非常勤)から、大筋を研修致しました。



最後の 10 月 3 日は、再び日中共同の研究打ち合わせ会議を開催、これまでの成果を総括し、技術移転作業を終了しました。

この日の夜、日本側関係者によるささやかな送別会を開催、同氏を慰労しました。

10 月 4 日同氏は午後 2 時 30 分成田発の CA926 にて帰国致しました。空港には鈴木伸理事と袖沢利昭助教授が見送りました。

(鈴木伸記)

H19 年度日中共同大気調査研究 山東省訪問記

11 月 5 日—10 日 青島、済南 山東大学、曲阜

平成 19 年度地球環境基金助成事業 - 中国現地大気の日中共同調査のため、本協会から、鈴木伸理事、小関光二会員〔(元)千葉県環境部技監〕、袖沢利昭会員(千葉大学工学部助教授)、及び通訳の藤崎和夫氏の 4 名が、11 月 5 日～10 日、中国山東省へ出張し、調査を行いました。

11 月 5 日

青島に到着。青島にて中国側カウンターパートの清華大学 許嘉钰副教授、高陽研究員らと合流、藤崎和夫氏紹介による緑之源検測有限公司を訪問、食品農作物等の安全検査の実情を聞くとともに、新しい分析機器センタ立ち上げ状況等を視察、今後の中国環境問題への日中協力等について懇談しました。

11 月 6 日

中国側実施中の大気測定 5 地点を一巡、その現状を視察、意見交換、助言等を行ないました。

青島は数年前訪問した時に比べると 2008 年 8 月の中国オリンピック水上市競技開催地のため、活気付いており、一段と道路整備が進み、自動車台数も著しく急増している印象を受けました。

11 月 7 日

時速 200km の快速列車にて約 2 時間で、青島より済南の山東大学に移動、中国環境科学分野の数少ない院士の一人で旧知の王文興教授と再会、旧交を温めるとともに、同教授研究室スタッフを交えて環境問題、学術交流問題等について懇談しました。

(左写真左より 弧延利秘書、小関会員、王文興院士、鈴木理事、王院士夫人、袖澤会員、諸教授)

その後、市内を一巡し、同市の代表的水の公園 2 箇所を見学し

ましたが、済南は、「家々に泉あり、軒々に柳あり」の「泉城」とも言われていますが、なるほどと理解しました。

道路は青島以上に自動車台数が多く、夕暮、立ち込めるスモッグが気になりました。

11 月 8 日

早朝済南を発ち、よく整備された高速道路を時速 100 km 程度で約 1 時間半走り、曲阜へ参りました。

曲阜は、孔子(紀元前 551—479)が生まれた故郷で、紀元前に魯の都があった所で、世界遺産となっています。孔子を祀る孔子廟、孔子一族の住む建物のある孔府、孔子直系子孫約 20 万人が眠るといふ孔子家代々の巨大墓地、孔子林等一巡致しました。

この辺は、青島、済南に比べると対照的な自然豊かな農村という印象を受けました。朝夕、済南と曲阜間を走る車の窓からしばしば深い霧を見ましたが、自然霧か人工霧か環境化学者として少し気になりました。

11 月 9 日

済南から快速列車にて再び青島に戻り、青島市内の特殊地区の環境視察を行ないました。

丁度、青島訪問中の地球環境戦略研究機構の小柳秀明氏らと青島市環境保護局の王軍副局長の招待宴に招かれ、久しぶりに最近の日中環境問題、これからの問題等について懇談致しました。

(鈴木伸記)



「環境 NGO と市民の集い」に参加して

11 月 23 日 於 JICA 地球広場講堂セミナーハウス



「環境 NGO と市民の集い」とは、(独)環境再生保全機構の所管する「地球環境基金」から助成を受けて行った民間環境保全活動の紹介や意見交換を通じ、市民の方々に環境保全活動への理解を深めてもらうとともに、環境 NGO と市民・企業・学校・行政等との情報交流、ネットワーク構築を図るための集いです。

当協会は平成 18 年度、この地球環境基金から 350 万円の助成を受けて「北京等中国都市における大気環境モニタリングに関する日中共同研究」なる事業を実施したことから、平成 19 年 11 月 23 日に行われたこの集いに、鈴木理事以下 7 名が参加しました。会場として、JICA 地球広場講堂セミナーハウスが用いられました。

今回のテーマは、「あなたはどこに、いくらを寄付しますか」という寄付フォーラムで、助成事業を発表するとともに、市民・企業で寄付を検討している方々に、いかにアピールするかの実践フォーラムです。

今回参加した団体は、当協会を含め 33 団体で、全体でフォーラムを行った後、6

つの分科会に分かれて発表会が行われました。当協会は第 3 分科会「技術・研究」に属し、5 団体が実績発表と寄付のお願いを行ないました。

当協会の発表は、小関光二氏がパワーポイントで行い、その概要は、清華大学と共同で行った北京市内の大気環境測定結果、技術移転、課題及び他都市への事業拡大のための寄付のお願いでした。大気環境測定は北京市内 5 か所、千葉市内 3 か所を夏季から冬季にかけて 1 日暴露・簡易測定法により行い、測定項目は SO₂、NO₂ 等の酸性ガス、VOC、カルボニル化合物でした。ちなみに、清華大学構内と千葉大学構内の測定結果を比較してみると、前者は後者に比し数倍の結果でした。

寄付については、寄付を考えている市民・企業の参加が少なく、その場での寄付はほとんど受けられませんでした。今後を期待しているところであります。

(小関光二記、鈴木伸監修)

2007 年度中国人留学生研究奨励賞 授賞式および研究発表会

伏見康治 研究奨励賞 (第 19 回) 李 英太(LI Yingtai)氏
菅野昌義 記念研究奨励賞 (第 5 回) 李 叶秋(LI Yeqiu)氏
向坊 隆 記念研究奨励賞 (第 4 回) 馬 雁 (MA Yan)氏
12月12日(水)13時30分~17時 於学士会館



(授賞式出席者全員の記念写真:前列左から馬 雁氏、平野敏幸教授、李 叶秋氏、呉 松一等書記官、伏見康治名誉会員、有山正孝理事長、程 普選一等書記官、谷萩隆嗣教授、李 英太氏、宮寄武教授)



本協会の重要な事業の一つである標記研究奨励賞の授賞式と受賞者による研究発表会が、去る 12 月 12 日(水)午後、東京都千代田区神田錦町の学士会館本館において開催されました。

今年度は上記 3 つの研究奨励賞について、本会会員に受賞候補者の推薦を依頼しましたところ、7 件のご推薦を頂きました。会員の中で候補者の研究分野に近いご専門の方々にご協力いただいで慎重厳正に審査を進め、11 月 14 日に選考委員会を開催して候補者を絞り、11 月 26 日開催の理事会において 3 名の受賞者を決定しました。

授与された賞、受賞者の氏名、所属(受賞時)、研究題目は、以下の通りです(発表順)。

第 19 回伏見康治研究奨励賞

李 英太(LI, Yingtai)氏 電気通信大学大

学院電気通信学研究科 知能機械工学専攻 博士課程3年

「準地衡風楕円体渦モデルの改良と楕円体渦周辺のカオス混合」

第 5 回菅野昌義記念研究奨励賞

李 叶秋(LI, Yeqiu)氏

千葉大学自然科学研究科 情報科学専攻 博士課程 2 年

「複数ニューラルネットワークを用いた医療画像の雑音除去の一方法」

第 4 回向坊 隆記念研究奨励賞

馬 雁(MA, Yan)氏

筑波大学大学院数理物質科学研究科 物質・材料工学専攻 博士課程3年

「Ni₃Al 金属間化合物の触媒特性」

授賞式には本会を代表して有山正孝理事長、伏見康治名誉会員、藤崎博也副理事長、山脇道夫副理事長、紺野大介常務理

事、永崎隆雄事務局長が出席、また来賓として中華人民共和国駐日本国大使館の呉松一等書記官と程普選一等書記官、および各受賞者の指導教官またはその代理の方として、宮寄武教授、谷萩隆嗣教授、平野敏幸教授をお迎えしました。

まず有山理事長から研究奨励賞の趣旨の説明があり、次にご出席の方々の見守る中で有山理事長から各受賞者に賞状と副賞が手渡され、さらに呉一等書記官からご祝辞を頂き、また、受賞者を代表して、李叶秋氏が謝辞を述べました。

続いて受賞者による研究発表に移りましたが、全員がパソコンと液晶ディスプレイを使い、よく準備された発表を行いました。なお、各受賞者の発表に先立って、宮寄、谷萩、平野の各先生にそれぞれ短い解説をお願いしましたので、受賞者の研究の背景と特色がより明確になり、研究発表会に参加された方々には大変に好評でした。

以下に受賞者の研究の概要を記します。

李 英太氏の研究: 自転する惑星の大気または海洋の運動では赤道付近を除き、圧力傾斜によって生じた流れがコリオリの力によって等圧線に沿った地衡流となり、一旦生じた渦はなかなか消えません。木星の大赤斑はその例と考えられています。このような渦の理想化したモデルとして、楕円体の渦度領域を持った楕円渦があり、特にオゾンホールや海洋渦のモデルとして精力的な研究が進められています。李 英太氏の研究は、このような地衡流楕円体渦の運動に伴って生じる、物質 (スカラー量) のカオス的 (すなわち非乱流的) な混合を議論するもので、指導教官の宮寄武教授の着想に従い、全体の流れを有限個の準地衡風楕円体渦に分割し、これらの間の相互作用を有限自由度の古典力学系に模して解析し、数値計算を通じて、現実にある現象のモデルを構築してみせたものです。

李 叶秋氏の研究: 李 叶秋氏は既にウェーブレットを用いた画像の閾値処理に基づく雑音除去に関して、画像信号と雑音との

分散の比に従って閾値を動的に変化させる手法を開発し、それに関して多数の論文を発表しており、国際会議でも最優秀学生論文賞を受賞しています。ただし、この手法は白色雑音を対象としたものであって、医療画像で問題となるショット性雑音に対しては効果が限定されたものでした。また、従来のニューラルネットワークは、教師画像と実際に処理すべき画像の特徴が似ている場合には有効ですが、特徴が大幅に異なる実際の医療画像に対して大量の教師画像を用意することは困難です。今回授賞の対象となった研究は、医療画像のエッジに着目したニューラルネットワークの学習法を提案するとともに、複数のニューラルネットワークを用意して、画像の特徴に応じて切り替える方式を提案し、その有効性を実証したもので、意欲的で、実用価値も高いものです。

馬 雁氏の研究: 馬 雁氏はこれまで金属間化合物の触媒特性を探索し、 Ni_3Al がメタン水素蒸気改質反応に対して触媒特性を有する有望材料であることを見出しましたが、この研究では、主に (1) Ni_3Al 急冷凝固粉末を用いて、触媒活性の探索、触媒活性向上のための前表面処理方法を検討し、次いで (2) 活性の高い試料について触媒活性、選択性、安定性など基本的触媒特性の評価を行いました。さらに、新しい小型水素製造機、マイクロリアクターへの応用を目的として、(3) Ni_3Al 冷間圧延箔試料についても同様の研究を行っています。これらの研究成果から、 Ni_3Al は粉末、冷間圧延箔、いずれの形態でも、メタンの水蒸気改質反応に対して触媒活性があり、水素製造触媒として応用の可能性があることを示しました。なお、 Ni_3Al は耐熱構造材としては多くの研究がなされていますが、触媒特性としては、この研究が世界で初めてのものです。

受賞者の皆さんの研究は、このように大変に有意義なもので、それぞれの発表の後には活発な質疑や討論が展開されました。

最後に、受賞者の皆さんの、今後一層のご研鑽とますますのご発展を期待します。

(藤崎博也 記)

第8回理事会

新役員の就任、有山理事長を互選

第8回理事会は、2007年7月25日に、創業支援推進機構会議室にて10名の理事、1名の監事の出席、9名の理事の書面委任状参加で開催されました。

議題1: 就任新役員と新理事長互選等

下記の役員が決りました。

理事(敬称略)

有馬朗人、有山正孝、安藤亘、井形直弘、井口洋夫、伊藤学、榎本聡明、岡田雅年、上坪宏道、小松彦三郎、紺野大介、坂部知平、定方正毅、鈴木伸、鈴木基之、堂山昌男、永崎隆雄、早川典生、深津保、藤崎博也、宮崎清、宮島龍興、山岡亜夫、山本良一、山脇道夫、若槻雅男

監事 梶井功、菱田一雄

新理事長 有山正孝（継続）

副理事長 藤崎博也、山脇道夫

常務理事 紺野大介、永崎隆雄

事務局長 永崎隆雄

議題2. 河南省商丘市交流団

引き調査を続けることとなりました。

議題3. 上海・合肥科学院研究所交流団

核融合国際学会の時期と合体し、10月21日から25日に延期することになりました。

議題4. 北京市大気測定環境プロジェクト

共同研究者の清華大学の高陽氏を日本に受入研修することが了承されました。

議題5. 中国人留学生研究奨励賞

本年度の伏見賞、菅野賞、向坊賞の受賞候補者の推薦を9月末の期限として全会員に依頼することとなりました。

出席、13名の理事と1名の監事の書面委任状参加で開催されました。

議題1: 奨励賞受賞者審査委員会委員長

受賞者選考のための審査委員長は、藤崎副理事長が選任され、審査委員と審査日程は審査委員長に一任されました。

議題2: 事務所の移転について

城南ビル改築のため、11月17日までに事務所を移転しなければならなくなり、移転先の調査・入居交渉が、正副理事長ならびに常務理事に一任されました。

正副理事長、常務理事による事務所候補視察の結果、日本橋横山町ダイカンプラザが交通利便性に良く、適切規模・家賃であると判断され、家主と交渉した結果、永木屋住宅有限会社と当協会の2社の同居が了承されました。

報告事項

① 日中地方性水資源の開発利用及び水利技術交流と合作に関する短期計画提案が早川理事よりなされ、黒龍江省との合作協定に当協会名を入れることが了承されました。

② 今年度上期収支状況は下記の通り。

経常収入 3,579,918 円

＝支出 2,625,745 円＋差額 954,171 円

資産 3,067,563 円

＝負債 1,010,440 円＋基金 1,628,783 円

＋正味財産 428,340 円

③ 会員の移動 鈴木洋夫会員 退会

④ 井口洋夫理事 第23回京都賞受賞
受賞式 11月10日国立京都国際会館

第4回総会(臨時)

事務所移転に伴い定款を変更

第4回総会(臨時の書面表決総会)は、2007年11月14日に、当協会事務所にて4名の理事の出席、52名の会員の書面表決状参加(総計56名)で、総社員98名の過半数の定足を越え、開催されました。

第9回理事会

奨励賞審査委員会と事務所移転

第9回理事会は、2007年10月5日に、創業支援推進機構会議室にて9名の理事の

藤崎副理事長が、議長に選任され、事務所移転に伴う定款変更が、承認されました。

定款 2 条の変更

変更前:この法人は、主たる事務所を東京都千代田区内神田2丁目5番5に置く。

変更後:この法人は、主たる事務所を東京都中央区日本橋横山町3-1横山町ダイカンプラザ403号室に置く。

第10回理事会

奨励賞受賞者審査結果と事務所移転日

第10回理事会は、2007年11月26日に、創業支援推進機構会議室にて13名の理事の出席、11名の理事と2名の監事の書面委任状参加で開催されました。



議題1:奨励賞受賞者審査結果

本年度は、応募者の専門分野を考慮し、小松、堂山、広瀬、藤崎の4名の審査委員が応募書類の審査にあたり、11月14日に選考会議を開催して検討した結果、下記の3名が受賞候補者として理事会に推薦され、質疑の後、原案通り了承されました。

第19回 伏見康治研究奨励賞

李 英太(電気通信大学大学院)

「準地衡風楕円体渦モデルの改良と楕円体渦周辺のカオス混合」

第5回 菅野昌義記念研究奨励賞

李 叶秋(千葉大学大学院)

「複数ニューラルネットワークを用いた医療画像の雑音除去の一方方法」

第4回 向坊隆記念研究奨励賞

馬 雁(筑波大学大学院)

「Ni₃Al 金属間化合物の触媒特性」

議題2:新事務所の経費等と開所日

①移転補償交渉の結果、電話 Fax・IT 設備の移設費、運送費、移転通知、名刺変更費が補償されることになりました。

②新規同居先との費用負担について、下記の案が了承されました。

イ)家賃:折半負担、ロ)礼金敷金、水道光熱費:同居先負担、ハ)電話、Fax、IT 費:協会負担

③新事務所の開所日を本日11月26日とし、引き続き、開所式が行われました。(写真)



報告事項 下記が報告されました。

①上海合肥原子力施設交流訪問団の状況
10月21~27日:山脇副理事長

②The ninth China-Japan Symposium on Materials for Advanced Energy Systems and Fission & Fusion Engineering(当協会共催)
10月23~26日桂林:山脇副理事長

③環境グループ中国調査団派遣の状況
11月6~10日青島:鈴木伸理事

④AEARU Joint Workshop-ICASS07
International Collaboration for Asian Sustainable Society.(当協会後援)
10月25~30日 南京、無錫:岡田理事

⑤煙台市 IT 環境投資説明会(当協会後援)11月1日:永崎事務局長

特定非営利活動法人 日中科学技術交流協会 新事務所地図

交通

都営新宿線	馬喰横山	徒歩 2 分
総武快速線	馬喰町	徒歩 2 分
都営浅草線	東日本橋	徒歩 4 分
日比谷線	小伝馬町	徒歩 5 分



訃報

当協会の理事2名がご逝去されました。
ご冥福をお祈り申し上げます。

定方正毅理事 9月25日 ご逝去
宮島龍興理事 11月26日 ご逝去

2007年度入会会員

海老原 弘行様: 7月3日

2007年度 退会会員

鈴木 洋夫様 : 転居のため
定方 正毅様 : 9月25日 ご逝去
玉木 英彦様 : 11月 2日 ご高齢のため
宮島 龍興様 : 11月26日 ご逝去

目 次

講演会-中国原子能科学研究院 の最近の活動	1
上海・合肥原子力科学技術機関との交流団	2
大気分析技術移転 清華大学研究者招聘	5
日中共同大気調査研究 山東省訪問記	6
「環境 NGO と市民の集い」に参加して	7
2007 年度中国人留学生研究奨励賞授賞式 および研究発表会	8
第8回理事会 新役員の就任、有山理事長を互選	10
第9回理事会 奨励賞審査委員会と事務所移転	10
第4回総会(臨時) 事務所移転に伴い定款を変更	10
第10回理事会 奨励賞受賞者と事務所移転日	11